

④葉ネギを栽培しよう

pH 6～7に土壤調整を

葉ネギ（青ネギ）は、特有の香りと食感が好まれ、薬味や料理の彩りによく使われる野菜です。プランターでも栽培しやすい野菜のひとつです。

①**プランター** 一般的なサイズ（約60㎝×20㎝×18㎝程度）のプランターでよいです。

②**培養土・肥料** 排水が良く、有機物を多く含む土が適しています。自分で配合する場合の例として、赤玉土7割、腐葉土2割、パーミキュライト1割を混合して使います。市販の野菜用培養土を利用するのが手軽です。肥料は培養土10ℓに対し、堆肥200g、化成肥料10g、苦土石灰10gを土とよく混合して使います。葉ネギは酸性土壌が苦手なので、pH6.0から7.0に調整してください。

③**種まき** 培養土の表面を平らにならし、種子のまき溝を、板切れなどで、1㎝程度の深さで作ります。一般的なプランターでは、条間を10～12㎝程度空け、植え溝を2列作れます。まき溝に1㎝間隔でまき、覆土をして、たっぷりと水をかけます。

④**間引き** 発芽後、草丈が5㎝程度になったら、3㎝間隔で間引きします。同時に株がぐらつかないように軽く土寄せを行います。

⑤**追肥、土寄せ** 種まきから20日から40日頃に追肥を行います。肥料と表面の土を軽く混ぜ、株元に土寄せします。

⑥**収穫** 草丈が30～40㎝程度になったら収穫です。株ごと引き抜いたり、地際から3～4㎝程度のところで切ったりして収穫します。切り取り収穫した場合、追肥と土寄せをすれば、葉が出てきて、再び収穫することができます。

プランターの土の再利用

作物を育てた後のプランター用土は、消毒することにより、再利用することができます。家庭でできる消毒方法を紹介します。

まず、栽培後の用土には、古い根や雑草等が残っているので、ふるいで、ごみや根、雑草を振り分けて取り除きます。

ふるいにかけて終わった用土に軽く水をかけ、透明なビニール袋（ゴミ袋等）に入れ、密閉し、5～10㎝程度の厚さに平らにします。日がよくあたるコンクリートの上などに2週間程置いておきます。真夏の日差しがあたることで、土の温度が上がり、消毒できます。太陽熱消毒といわれています。



（鹿児島市都市農業センター）

平成29年7月13日（木）／南日本新聞

<http://kateisaienkotu.com/yasainosodatekata/yousairui/hanegi.html>

<http://www.sc-engei.co.jp/cultivation/details/75.html>

<https://minonaru.net/post-1456/>